

一般病棟に勤務する看護師を対象とした患者や家族の予期悲嘆についての調査研究

著者	谷口 知佳子
発行年	2018-03-09
URL	http://hdl.handle.net/10422/00012392

氏 名	谷口 知佳子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第226号
学位授与の要件	学位規則第3条第1項
学位授与年月日	平成30年 3月 9日
学位論文題目	一般病棟に勤務する看護師を対象とした患者や家族の予期悲嘆についての調査研究
審査委員	主査 教授 佐々木 雅也 副査 教授 河村 奈美子 副査 講師 輿水 めぐみ

論文内容要旨

※整理番号	231	(ふりがな) 氏名	なぐちちかこ 谷口知佳子
修士論文題目	一般病棟に勤務する看護師を対象とした 患者や家族の予期悲嘆についての調査研究		
<p>【目的】一般病棟に勤務する看護師を対象に「看護師に対する緩和ケア教育プログラム」を受講した者と未受講の者の、がん及びがん以外の患者や家族の予期悲嘆への関わりについて、死にゆく患者に対する医療者のケア態度を測定する尺度の FATCOD-Form B-J を使用し研修の受講効果を実態調査する。</p> <p>【方法】研究デザインは横断的調査研究。現在、都道府県がん診療連携拠点病院と地域がん診療拠点病院の一般病棟に勤務するクリニカルラダーレベルⅡ以上の看護師を対象に、属性と FATCOD-Form B-J で構成した質問紙調査を実施した。</p> <p>【結果】302名の回答(有効回答率 64.3%)を得た。予期悲嘆に関する研修を受講したことがあると 44名(14.6%)が回答した、受講したことがないと回答したのは 258名(85.4%)であった。予期悲嘆に関する研修の受講の有無別に、FATCOD-Form B-J の得点を比較した結果、有意な差は認めなかった。しかし、研修内容別に比較してみると、ELNEC-J 研修の受講者と未受講者において、FATCOD-Form B-J の下位尺度「I. 死にゆく患者のケアの前向きさ」に有意差を認めた(p=0.025)。予期悲嘆に関する研修の受講有無を層化し、対象者の基本属性別に比較すると、研修の未受講層でクリニカルラダーレベル(p=0.037)、専門領域(p=0.011)、がんリンクナース(p=0.035)の各項目で FATCOD-Form B-J の総合得点に有意差を認めたが、一方、受講層では有意差を認めなかった。また、FATCOD-Form B-J 下位尺度 I に関連する要因を検定した結果、看取りの場に立ち会った経験人数(p=0.001)に関連が認められた。</p> <p>【考察】ELNEC-J の研修は参加者の看護ケアに対する態度や自信に影響を及ぼすことや、自己認識を高める可能性があり、ELNEC-J の研修受講により死にゆく患者のケアの前向きさに有意な差を認めたと考えられる。そして、研修未受講層では、総合得点に有意差がみられたのに対し、研修受講層では看護経験による FATCOD-Form B-J 総合得点に有意な差はなく、研修を受講することで得られた知識の関与により看護経験によるケアの態度の差が緩和されたと考えられた。また、FATCOD-Form B-J 下位尺度 I と、看取りの経験に関しては、看取りを経験することから学びを見だし、経験と知識を結びつけていたのではないかと考えられた。</p> <p>【総括】予期悲嘆に関する研修の受講の有無による FATCOD-Form B-J の得点に差は認められなかったが、研修の種別では ELNEC-J の研修の受講の有無で死にゆく患者のケアの前向きさが高くなった。そして、研修未受講者では看護経験による FATCOD-Form B-J の得点に差を認めたが、研修受講者では看護経験による FATCOD-Form B-J の得点に差を認めなかった。また、患者の看取り経験が多くなるほど、死にゆく患者のケアの前向きさが高くなった。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200字程度)